

第 16 回日本薬局学会学術総会
ポスター発表

新型コロナウイルス感染拡大時における薬局業務負担の変化の実態調査について

総合メディカル(株)そうごう薬局 浦添当山店
富永 アリサ

【目的】新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）患者に対する薬局での対応について、発熱患者や濃厚接触者には別場所を確保するなどの措置を必要とするため、非感染患者への通常の調剤業務に影響を与えるなど、難しい薬局運営が求められている。そこで今回、薬局でのコロナ対応状況を調査し、コロナ前と比べて負担を感じる業務について検討したので報告する。

【方法】そうごう薬局の南部九州地区 65 薬局にアンケートを依頼。2022 年 1 月より 3 か月間のコロナ関連患者対応として、0410 対応、自宅宿泊療養、発熱外来での処方枚数を調査。また、調剤の各工程（受付・調製・服薬指導・交付）において通常対応と比較した業務負担増加の程度を 10「とても負担増加」5「通常と変化なし」1「負担軽減した」の 10 段階で評価し、業務上の課題・工夫点を調査した。

【結果】58 薬局より回答あり、うち 52 薬局でコロナ関連処方を応需。3 ヶ月間の合計 6,020 枚、1 薬局あたりの月平均 38.6 であった。内訳は、0410 対応 1,014 枚（月平均 6.5 枚）、自宅宿泊療養 724 枚（4.6 枚）、発熱外来 4,282 枚（27.4 枚）。調剤の各工程の業務負担増加の程度の平均は、受付 7.2、調製 5.6、服薬指導 7.1、交付 7.2 であった。コロナ関連処方枚数の月平均 24 枚以上の薬局では全体平均 8.0、24 枚未満平均 6.9 であった。また、受付業務の課題として「非感染患者と比較して収集すべき情報が多く、電話では十分に聞き出せない」との意見があり、患者情報聴取方法の違いによる業務負担増加を比較したところ、電話での聴取 7.8（26 薬局）、病院と問診票情報を共有 5.8（5 薬局）、それ以外の方法 6.7 であった。

【考察】今回の調査で、コロナ対応においては服薬指導や薬のお渡し以外に患者情報収集が業務の負担となっていることが示された。一方で、病院との情報連携で問題解決した例も見られたことから、効率的な対応を行うためには薬局間で工夫を共有することも重要であると考察した。